

地震の発生 二〇〇九年一〇月十八日（日曜日） 午前七時五十五分
震源地 新潟県中越地域
地震の規模 マグニチュード六・八
山古志地区の震度 六強
最初の場面となる場所 竹沢地区一時集合場所（下）
気温 約十五度 くもり
発生直後の集落内での安否確認
課題

状況設定（ナレーションも可）

幼稚園児の道子と一緒に農作業中に地震に遭遇した花子は、自宅に戻り家族の安否を確認する。竹沢集落下地区の一時集合場所では、副区長を中心に集落住民の安否確認作業が始まっている。情報伝達班のメンバーが上地区の一時集合場所に伝令として走り、上地区にいる竹沢集落の区長が地域の情報を山古志支所に衛星携帯電話で伝える作業を行うことになる。しかし衛星電話での通信は思っていたほど簡単ではなかった。

【ストーリー】

登場人物

長岡花子（ながおか はなこ） 山古志竹沢在住 主婦
長岡道子（ながおか みちこ） 山古志竹沢在住 幼稚園児
齊藤（防災会長） 竹沢地区区長兼防災会長 上地区の責任者
星野 防災副会長 竹沢地区防災会副会長・下地区一時集合場所の責任者
鈴木（避難誘導班長） 竹沢地区避難誘導班 上地区の避難誘導班長
森（情報伝達班長） 竹沢地区情報伝達班 上地区の情報伝達班長
相田（救護班長） 竹沢地区救護班 上地区の救護担当
五十嵐（対策本部） 山古志支所対策本部主任
避難者男D 下地区からの避難者
避難者男H 学校に子供がいて心配している
避難者女I 娘が中学校へ行っていて連絡が取れない
避難者男J 町に息子が行っているが、メールが届く

避難者男K

避難者女L 子供が村外に出ているため心配している

避難者女M 旦那が畑からまだ帰ってきていない

車椅子避難者O

介護者P

一時集合場所に避難してきた避難者（数名）

FMながおかアナウンサーの声

【花子モノローグ】

下の一時集合場所に集まった住民が持ってきたラジオから流れるFMながおかの放送で、中越地域でまた大きな地震が起きたことを知りました。私はとにかくお父さんと、息子の市郎と連絡が取りたい一心で、携帯メールを送り続けていました。

道子 ママ、お父さんは？

花子 すぐ連絡取れるからね：待っててね

近くの住民の話声が聞こえる

住民

おい、上のスキー場の山の上なら携帯通じるってさ。俺さつき行ってきたら何回かに一回繋がった。町の息子と連絡がとれたて。大丈夫だった

「ほんとか？」「よし、行ってみよう」住民が口々に噂していた

花子 あたしもちよつと行ってみようかな。お父さんや市郎と連絡できるかも

花子がそう考え始めた時、夫からメールが届く

メールお父さん「大丈夫か？俺は大丈夫。道路封鎖されて車で戻れないから、今は雄一の家にいる。通れるようになったら戻るよ。返事待つ。」

【花子モノローグ】

お父さんからメールが来ました。無事が確認できてうれしい。話
はできないけれどメールってこういうときに心強い。

上地区の一時集合場所にも多くの住民が集まってきていた。時折余震がやって
くるので、皆口々に不安を訴えている。中には、貴重品・毛布・冷蔵庫に入っ
ていた野菜などの食料まで抱え出している住民もいる。防災会長を問い詰める
被災者たち。

避難者男H この場所にはいつまでいるんだ？何の情報も入ってこないじゃね
えか。何とか支所と連絡できる方法はないが？

齊藤（防災会長） いま下地区から連絡が来たんで、こっちと合わせて竹沢
全体の状況を整理して、支所に衛星電話で連絡するところだ。ち
よっと待ってくれんか。

情報伝達班S 区長さん、衛星携帯電話のセットができました。このテーブ
ルの上でちよっと調整してみてくださいか。

齊藤（防災会長） 隣組の被害状況は全部まとまったかな。避難誘導班はけ
が人の搬送は済んだかな。

そこへ情報伝達班のメンバーが相談に来る

情報伝達班 区長さん、困ったて。隣組長さんたちが安否の確認で集落内を周
っていたら、外国人の観光客が一人いて、何言ってるかサッパリ
わからんってみんな困ってるて

齊藤（防災会長） 道路が寸断されて他にどこにも行かんねんだ、しばらく
ここに避難していてくれって、そのことだけでも伝えてえもんだ
な。誰か外国語しゃべれる者いねえもんだろか

避難者男H おお、それじゃ高野さん家の娘さんが、しばらく外国にホームス
ターしてたって聞いたど。さっきここに避難しているの見たんだ、
頼んでみるて

齊藤（防災会長） おお、そりゃ助かるて。悪いけど事情を話して頼んでも
らってくんねろか

避難者男Hは情報伝達班のメンバーと外国人対応に向かった

屋外に置かれたテーブルに向って衛星電話の調整を始める防災会長や役員たち。そこへ家族を心配した住民たちが衛星携帯電話の話を聞いて防災会長を取り囲む

避難者女I　なんだ衛星携帯電話とか言いながら携帯してないじゃねえねか。

どうして携帯しないがら？

齊藤（防災会長）　衛星携帯とは言うが、アンテナの角度をきちんと調節したりせねばならんで、とても携帯して持ち歩けるものではないもんだて。

避難者女I　その携帯電話使って娘と連絡取れるようにしてもらえねろっか

齊藤（防災会長）　すまねえけど、この電話は支所から預かった大事なもんだ。

地区の情報を支所に報告するためのもんで、一人一人が勝手に使おうわけにはいかんで。

避難者女I　どうしてうちの娘一人の連絡も取れないがら。うち一人くらいいいろ？

齊藤（防災会長）　バッテリーで通信するのであんまり長く話せんだって。まず災害本部から電話がかかってくるのを待って、それから決められた時間に、こっちの状況を伝えることしかできねえがら。わかってくれて

避難者女L　子供（家族）が村外に出ていて心配だて。村の状況が他に伝わっているんだろか？

齊藤（防災会長）　今はまだわからんて。山古志の情報は全て支所の災害対策本部に集まることになってると思うろも、その支所とまだ通信できてねえつけ。結構けが人がいるかもしれんし、はやく衛星携帯電話使って役所に連絡とりてえな

避難者男H　俺も何とかして学校にいる子供と連絡が取りてえ。自分の携帯電話は使えないし。何とかしてほしいて

情報伝達班S　衛星電話の回線が一本しかないため、救急搬送の要請など緊急事態以外は、役所からの連絡を待つようになってるんだて。他の集落もみな同じだ。支所へは原則集落からかけてはいけないことになってるがら

避難者女I　一方的にしか通信できない携帯電話なんて、初めて聞いたわ

避難者男H　衛星で無線なら、回線が何本も作れるろ。違うんか？

齊藤（防災会長）　そんなこというてもなあ

避難者女L　ここから支所まではそう遠くねえろ。動ける人は支所へ向かったほうがいいんじゃないろか

齊藤（防災会長）　今は勝手に動かんでくれて。竹沢だけでも誰が不在で誰が無事かどうかはまだまとめきれないっけ

避難者女M　うちの旦那が畑行っただけ帰り帰ってこねえて。何とかして探してほしい。心配で私だけ避難するわけにもいかねえて

避難者男J　あつ、あそこに煙が見えるれ。火事が起きているんじゃないか？
避難者男K　おーい、吾郎作さんの栄三さんがいないれ、どこにいった？みんなで探してくれないだろか

避難者女M　彦左衛門さんのところの家のボンベが倒れて臭かったて。あそこ
の家の婆さんは一人暮らしだけど大丈夫だろっか。誰か見に行ってくれないろか？

齊藤（防災会長）　危険そうな家には入らないほうがいい。まだ余震が頻繁なため明らかに傾いた家は崩れる恐れがあるて

避難者男H　じゃあどうやって安否確認するだよ

避難者女M　心配らて。あの婆さんは小さいときさんざん世話になったし

齊藤（防災会長）　これから救護班を中心に取り残されたと思われる住民の救援に向かわせるっけ、どの辺か案内頼むれ。その前に正確な情報を集めて、なるべく効率的に周りんと。情報伝達班への情報集約に協力してくれて

情報伝達班が防災倉庫からホワイトボードを持ってくる。

齊藤（防災会長）　みなさん、このホワイトボードに隣組単位で情報を書き込み、竹沢地区の被災状況を整理し、支所の災害本部へ状況を報告します。すみませんが情報伝達班長の指示に従って、各隣組の安否を確認し、報告してください。

森（情報伝達班長）　みなさん、安否確認の情報提供ありがとうございます。
前回の地震の時のように、混乱した状況だとなかなか正確な状況を伝えることが難しいと思いますが、一人でも怪我人や取り残された人の無いよう、よろしくお願いします。

近所の住民たちはしばらく騒いでいたが防災会長の話に納得はしたようだ
そこにけが人の救助を求める連絡が入る

避難者女L　隣のお婆ちゃんが倒れたタンスの下敷きになって怪我をしている
みてえだったて。外傷はなんでもないろも、頭を強く打っている

ようらった。あたしだけではどうにもならんから、誰か助けてくれねえかな。

齊藤（防災会長） 救助班を組織して俺たちの可能な範囲で救助するっけ。動ける男だけでも五人くらい集まれば救助に向かわせたいろも、救助班たのむれ

救助班長が集まっている避難者に声をかける

相田（救護班長） みなさん、救護班から連絡です。倒れたタンスの下敷きになって怪我をしているお婆ちゃんがいるそうです。動ける男性の人は救助に向かってもらえませんか？家の中に入るのは余震もあるため非常に危険だども、できる範囲での救助をお願いします。俺はあのお婆さんに小さいころお世話になった。何とかして助けたいから協力するて

避難者男K 私も家族の無事は確認できたっけ、できるだけ地区の活動に貢献してえ

避難者女L 私が案内するっけみんなついてきてくれて

避難者女Bに住民数名がついて救助へ向かった

避難者男H まだ集合場所が解らない人たちには、地藏様の前の広場に集まっていたのでここに来るよう伝えてきたて。沢田さん家の奥さんが足をケガしたみてえろ。それから、長岡の町から来た者が、トネルの入り口で土砂崩れがあつて道が塞がっていると小林さんが言つてたれ

避難者男F おれも支所へ行こうとしたろも、支所へ行く道も石が崩れて車は通れなかつた。山道を歩けばたどりつけるろも、俺一人だったのでやめたて。ラジオも長岡とか小千谷のことばかりで、この辺のことは全然言つてねえろ

避難者男C 山古志の状況がまだ伝わってないのかもしれないねえな

避難者男J 齊藤さんが納屋から持ってきたラジオがあるっけ聞いてみようて

F Mラジオから流れる放送に耳を傾ける住民たち。

F Mラジオ

こちらはF Mながおか災害緊急速報です。本日十八日午前八時〇五分。新潟県中越地区を中心に大規模な地震がありました。各地の震度は：」

避難者男H なんだ。一番ひどいのは、また山古志と川口あたりだねか

避難者女I 誰か携帯貸してくんねえか？家族と連絡がとりたいんだけど

避難者男J 俺もさつきからずっと携帯かけているけど、全然通じねえて

避難者女I 電波が悪いのだから。それともみんなが使っているためパンクしているのだから。

避難所に流れていたF Mラジオから役所の緊急割り込み放送が流れる

緊急放送

「こちらは長岡市役所の山古志支所災害対策本部です。ただいまより支所から各集落に衛星携帯電話で開通の確認と被害状況を確認します。集落では、情報を集約し、定められた書式で報告をお願いします」

避難者男H おい、もう一台ないのか？

情報伝達班S 衛星携帯電話は支所に1台、各集落に1台ずつです。

避難者女D とにかくモタモタしていないで、早く設置して通信したらどうなの？

齊藤（防災会長） このアンテナはどこに向ければいいんだ？

情報伝達班はマニュアルを見ながら設置している

情報伝達班S 南の方角に向けるみてえだ

避難者男H バッテリーはあるのか？替えはあるのか？どのくらい持つんだ？すぐに無くなったらどうにもならんれ

情報伝達班S 基本的に二、三日は持つと聞いているも・・・よくわからん

情報伝達班と防災会長が衛星携帯電話の設置を、説明書を見ながらようやく完成。通信設定をしているところに、支所からの電話のコール音（ピピピ）が響く。

対策本部 「もしもし、聞こえていますか、こちら山古志支所現地対策本部の五十嵐です。」

齊藤（防災会長）　もしもし？聞こえますか？

対策本部　「・・・こちら山古志支所現地対・・・す。」

齊藤（防災会長）　聞こえねえ。もしもし？こちら竹沢集落ですが

対策本部　「もしもし、聞こえてますか、こちら山古志支所現地対策本部の五
十嵐です。」

齊藤（防災会長）　この携帯電話、よく聞こえねえ

対策本部　「すみません。そちらの安否確認と被害状況をお聞かせください。」

齊藤（防災会長）　竹沢地区防災会長の、齊藤です。いま集まってきた人

数は・・・

対策本部　「まってください。竹沢地区の・・・どなたですか？」

齊藤（防災会長）　齊藤です。防災会長です

対策本部　「そちらの状況を聞かせてください。」

齊藤（防災会長）　道路が寸断されてどこへもいけねえ。どうせばいながら

対策本部　「すみません。順を追って報告してください。そちらの通信を開設
できたのは何時ですか？」

齊藤（防災会長）　たったいまらて。ええと・・・八時二三分で竹沢地区の区
長の齊藤です

対策本部　「・・・うまく聞き取れずにすみません。区長さんですね。何か被
害はありますか？」

齊藤（防災会長）　二丁野と下村で建物の半壊が一軒づつあった。道は長岡
方面も道がふさがれているみてえらし、支所方面もダメらと聞いた。もう一つの道も塞がれた。孤立状態らて。早く救助隊に來
てもらわんと。あと中学校に行っている子供たちがいつぱいて、
その子たちがどうなったか聞きてえて。とにかく何とかしてくれ
て

対策本部　「すみません。早口すぎてうまく書きとれません。もう一度、ゆっ
くりお願いします。道路が不通だそうです、その区間のどの地
点か聞かせてください。まず支所に向かう道はどの地点で閉塞し
ていますか？」

齊藤（防災会長）　あそこらて。ええと・・・下の駐在所から支所に向かって
200mくらいの場所らて

対策本部　「竹沢郵便局付近ですか？」

齊藤（防災会長）　おお、そうらそうら。あと長岡方面と国道の方面は人づて
なんだよく解らんで

対策本部　ではまた、一時間後の九時三五分にこちらから連絡をします。なお、
緊急以外はそちらからかけることのないよう・・・

ガチャ・・・プー・プーッ

齊藤（防災会長）　なんだこれ。よく聞こえない電話らなあ。あと一時間後に新しい被害状況を報告しねえと

そこへ住民と救護班がやってくる

避難者男J　大変らて。さっき婆さんを助けに行ったら、婆さんタンスにぶつかって出血してるて、早く医者到手当てしてもらわんと

避難者女L　区長さん、お願いらて、救助隊呼んでくれて

齊藤（防災会長）　わかった。そりや大変だ。これから連絡するっけ、救護班に応急手当てしてもらって来て

救護班G　二丁野でケガ人が一人出たみたいら。落下物が当たって出血したらしいて

防災会長は対策本部へ緊急の衛星携帯電話をかける

対策本部　「はい。こちら山古志支所現地対策本部の五十嵐です。どうされましたか？」

齊藤（防災会長）　竹沢集落の区長、齊藤です。ケガ人が出たので連絡しました。至急医者をお願いしたい

対策本部　「ケガ人がいるのですか？どのような状況ですか？」

齊藤（防災会長）　二丁野で一名、落下物が当たって出血した者がいます。あと下村でタンスが転び、足をケガした者が一名いますて

避難者女性H　足じゃないわよ。頭よ、頭！

対策本部　医師の派遣要請はありますか？

齊藤（防災会長）　来てくれて。はやく

対策本部　ケガの程度はどのようなものですか？

齊藤（防災会長）　血が出たみたいだけど、スリ傷だと思えます
対策本部　「すみません。緊急連絡はあくまでも重症の場合や、今後病気が重

くなることが見通される場合にのみ連絡してください。スリ傷では医者への派遣要請に応えることはできません。すみませんが現地で対応をお願いします。」

電話を切られる

齊藤（防災会長） あつきや、切らいたて。スリ傷くれえ自分で直せてや
救護班G 救急箱があったつけ、応急処置しとくて

その頃山古志支所では・・・

対策本部職員（連絡担当） なんだかよく聞こえませんか。スリ傷まで報告さ
れてもなあ

対策本部職員（管理職） どうした。

対策本部職員（連絡担当） けが人がいるみたいだけど大したことないようで

対策本部職員（管理職） 程度にかかわりなく、医療班に連絡するようにつて話

は聞いてなかったのか。

対策本部職員（連絡担当） ええ、そうでしたっけ。

対策本部職員（管理職） ばかやる。報告用紙はどうした。

対策本部職員（連絡担当） そのこの駕籠に入れましたよ。

対策本部職員（管理職） しょうがねえな。おい医療班。竹沢だけが人だ。

一方、下地区の一時集合場所に集まった住民たちは、防災副会長と一緒に上の
一時避難場所や竹沢保育園への移動を始めていた。

鈴木（避難誘導班長） 副会長さん、道の起伏が激しくて車椅子のお年寄りが
怖がってるて。どうせばいいろか？

星野（防災副会長） こう上り坂や下り坂が多くては、車椅子は怖いだろう。

下手すれば前のめりになって倒れる危険があるなあ

避難者男D 下り坂は後ろ向きで行かせるとかどうだろうか？これなら安全
に運べるて

星野（防災副会長） おお。そうらね。そうしようて

介護者が車椅子のお年寄りを後ろ向きにして運ぼうとすると・・・

車椅子避難者O おお。怖いて、やめてくれて。

星野（防災副会長） 怖がってだめらなあ。やっぱり前向きでゆっくり行こ
うて

介護者が車椅子を前向きに変え、ゆっくりと前へ進めると・・・

介護者P

すみません。坂がきつくてブレーキをかけても効きづらくて押すのが怖いです。このまま加速して行ってしまいます。

防災副会長は周りの住民に声をかける

星野（防災副会長）

すみません。誰か二人一組になって車椅子の方を運んでくんえろか

避難者男D

いろいろも、どうやって運ぶんだ？

星野（防災副会長）

前後ろに一人づつ持ってもらって運ぼうて。そのほうが安全ら

「大丈夫か？」「おお。これなら大丈夫だ」住民たちは声をかけ合って竹沢保

育園へ移動していった。

一方上の集合場所では、情報伝達班がノートパソコンを使って、インターネット通信を試みていた

森（情報伝達班長）

おい、みんな。インターネット繋がったて。市のホームページに「中越地区を中心に大規模な地震あり。各地の震度は・・・」って書いてあるれ

齊藤（防災会長）

おお。これは助かるなあ。各地域の避難場所が載ってるて。何とかしてこの状況をこれを使って交信できないもんだろか

森（情報伝達班長）

メール機能が使えれば、市や県と直接通信できるかもしんね。やってみるて

齊藤（防災会長）

俺はその辺の事よくわからんから、やるだけやってみてくれて。ここで集約した情報は全部伝えてくれて。救助の日とか、救援物資の配給場所や時間とか、解ったら聞かせてくれて

「こうしたらどうだ？」「メールで県や市に送ってみようて」など口々にやり方を相談し合っていた。

【花子モノローグ】

私たち家族は竹沢保育園へ無事移動できて、ようやく落ち着くことができました。既に市役所からも人が来ていて、炊き出しや救護体制を整えようとしていました。前の災害より対応が早いなあと思いました。

支所との連絡で市郎のいる中学校は無事でみんな安全な所へ避難していると聞きました。先生も一緒だから一安心。区長さんの話では、二次災害を避けるためにもこの避難所ですばらく避難して状況を確認することになりました。不安は・・・前よりは無いかな？はやく家族のみんなに会いたい。それまで私も何か手伝わなきゃ。

五年前に起きた中越地震。それと同等の地震がまた来てしまいました。やっと復興し始めた山古志が、またも被災地になるとは思ってもいませんでした。

でも、前回の地震と大きく違うと感じたことがあります。一つは倒壊した家々が建て直される際に、同規模の地震にも耐えられるような地盤改良と、建物の構造を強化した作りになっている家がほとんどだったこと。そのため住居の被害は思ったより少ないみたいです。あとは、被災した私たちの「気持ち」かな。一度体験したという経験が、私たちの行動や動揺が以前とは比べ物にならないくらい強く、素早い対処ができたのだと思います。

それでも・・・やっぱり地震はもう懲り懲り。もう起きてほしくありません。だって、村が、山古志が好きだから。

地域発防災ラジオドラマ

現状とドラマ（フィクション）との相違点

- 二〇〇四年の新潟県中越地震は本ドラマの舞台である新潟県古志郡山古志村（現在の長岡市山古志地区）や北魚沼郡川口町に大きな被害をもたらしました。この地域は地すべり地形といって、斜面が滑動しその上にある構造物に大きな被害をもたらす可能性のある地形が至る所にあります。そこで震災後は非常に広範囲に土留めの工事をしたり、集落によつては集団移転をしたところもありました。今回、山古志地区では二〇〇九年一〇月の防災訓練をするための計画として、地域に起こりうる災害の種類や規模をワークショップで議論し、竹沢集落では前回と同様の直下型地震が発生することを前提としたシナリオをベースに検討を行うことになりました。ただし建物やインフラ（道路やライオン）は前回の震災後相当に改修・改善が進んでいますので、前回のような壊滅的な被害は出ないだろうという想定で検討することになりました。

た。したがってドラマでは建物が全面的に倒壊するような被害や、地形が大規模に崩落するような被害は出てきません（第二話の最後の「花子」のモノローグをご覧ください）。しかし、屋内で住民が怪我をしていたり、安否が不明で確認が容易でないシーンは登場します。これらはワークシヨップで議論された地域住民自身によるミクロな被害想定がベースとなっています。

● 中越地震の後、山古志地区ではすべての集落に衛星携帯電話の端末を配備しています。ドラマでは混乱を避けるため各集落からの通信が一定のルールを守ってかけられることを想定しています。実際に災害にあったときに、どの程度このルールに従って通信できるかは未知ですが、ドラマでは現状の通信体制が持つ限界も含めて、わかりやすい形で表現してあります。今後、中山間地における住民の安否確認の問題を考える中で、この課題を解決するさまざまな提案や工夫が出てくることを期待しています。